

神奈川フィルハーモニー管弦楽団 特別演奏会



KANAGAWA
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

フレッシュ
第18回
フレッシュ・コンサート
Concert

未来を奏でる新星たち

2024年 **1/27** (土)

14:00開演(13:15開場)

神奈川県立音楽堂

主催：公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団、神奈川県 共催：川崎市 協力：日本音楽財団 特別協力：日本財団



日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION



プログラム

指揮:横山 奏

トランペット:三村梨紗 (b)

ソプラノ:中野亜維里 (◇)

バリトン:宮下嘉彦 (#)

ヴァイオリン:ステラ・チェン (*)

管弦楽:神奈川フィルハーモニー管弦楽団

コンサートマスター:大江 馨

フンメル

トランペット協奏曲 変ホ長調 WoO.1 (S49) (b)

I. Allegro con spirito II. Andante III. Rondo

グノー

歌劇「ファウスト」より“宝石の歌” (◇) “出征を前に” (#)

ロッシーニ

歌劇「セビリアの理髪師」より

“私は町のなんでも屋” (#) “今の歌声は” (◇)

休憩

芥川也寸志

弦楽のための三楽章

I. Allegro II. Berceuse, Andante III. Presto

プロコフィエフ

ヴァイオリン協奏曲第2番 ト短調 Op.63 (*)

I. Allegro moderato II. Andante assai III. Allegro, ben marcato

1. 携帯電話やアラーム付時計をお持ちの方は、電源をお切りください。
2. 演奏途中でのご入場、場内での録音や撮影、飲食および喫煙はかたくお断りいたします。
〈お願い〉 3. 館の包み紙やビニール袋、プログラムのページをめくる音、鈴・チャームなど、演奏中に物音がたたないようにご配慮ください。
4. 演奏中の私語はご遠慮ください。咳やくしゃみは口元をハンカチで押さえるよう、お願いいたします。
5. 拍手はタクトが降るされてから。演奏後の余韻もお楽しみください。

プロフィール



横山 奏(指揮) Kanade Yokoyama, Conductor

1984年札幌生まれ。桐朋学園大学、東京藝術大学大学院にて指揮法を勉強。ダグラス・ボストック、尾高忠明、高関健、中村隆夫、黒岩英臣の各氏に指揮法を師事。2018年、指揮者の登竜門と言われる「第18回東京国際音楽コンクール」にて第2位&聴衆賞を受賞。これまでに札幌響、都響、読響、新日本フィル、東京フィル、東京シティフィル、名古屋フィル、大阪フィル、広響、九響などと共演。2015-2017年、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員。趣味は登山。NHK-FM「石丸謙二郎の山カフェ」にシーズンゲストとして登場し人気を博している。



三村梨紗(トランペット) Lisa Mimura, Trumpet

横浜市出身。神奈川県立鎌倉高等学校卒業。2020年東京藝術大学を首席で卒業。現在、ドイツ国立ハンブルク音楽演劇大学の大学院修士課程に在籍し、マティアス・ヘフス氏に師事。2022/2023ハーゲンフィルハーモニー管弦楽団契約首席ソロトランペット奏者。第16回東京音楽コンクール、第87回日本音楽コンクール、第36回日本管打楽器コンクールにてそれぞれ第1位、聴衆賞その他各賞を受賞。これまでに読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団ほか国内外のオーケストラと共演を重ねている。東京藝術大学宗次徳二第3期待待奨学生。2020・2021年度ロームミュージックファンデーション奨学生。



中野亜維里(ソプラノ) Airi Nakano, Soprano

神奈川県横浜市出身。日本大学芸術学部首席卒業(学部長賞)。その後、東京藝術大学を経て、東京藝術大学大学院修了。二期会オペラ研修所を優秀賞にて修了。文化庁文化推進特別事業新国立劇場公演『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ等を演じる他、22年11月『天国と地獄』ミネルヴァにて二期会デビューし、23年6月二期会『平和の日』にも女性の市民にて出演している。またコンサートでも、「第九」、「メサイア」等のソリストも務めている。2023年10月、二期会『ドン・カルロ』デバルドでの演唱は好評を博した。二期会会員



宮下嘉彦(バリトン) Yoshihiko Miyashita, Baritone

昭和音楽大学首席卒業、二期会オペラ研修所を総代、川崎静子賞、最優秀賞にて修了。第5回かわさき新人声楽コンクール第1位及び川崎市市長賞受賞。これまでオペラでは『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『愛の妙薬』ベルコーレ等を演じる他、コンサートでもベートーヴェン「第九」をはじめ、プッチーニ「グローリア・ミサ」等のソリストも務める。2023年は7月二期会『椿姫』仲介人、10月『ドン・カルロ』代議士を演じた他、第59回日伊声楽コンコロソ第3位を受賞する等、次世代を担うバリトンとして注目を集めている。二期会会員



ステラ・チェン(ヴァイオリン) Stella Chen, Violin

2019年エリザベート王妃国際音楽コンクールで優勝したステラ・チェンは、翌年、エイヴリー・フィッシャー・キャリア・グラント受賞、リンカーンセンター新進芸術家に選ばれた。ハーバード大学のロバート・レヴィン賞初代受賞。ドナルド・ワイラー・スタイン、イツァーク・パールマン、ミリアム・フリード等に学び、著名なオーケストラや演奏家との共演やリサイタルなどで国際的な活躍を続けている。エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝の副賞として日本音楽財団から貸与されたストラディヴァリウス1708年製ヴァイオリン「ハギンス」を使用。

神奈川フィルハーモニー管弦楽団 Kanagawa Philharmonic Orchestra

地域に密着した音楽文化の創造をミッションとして、神奈川県全域を中心に全国各地で幅広い活動を続けている。横浜を中心とした定期演奏会、県内各地を回る巡回公演などの主催公演を開催。音楽教育にも積極的で、広い世代に音楽の魅力を伝え、特別支援学校への出張演奏も行っている。2020年には創団50周年を迎えた。指揮者陣は、音楽監督に沼尻竜典、名誉指揮者に現田茂夫、特別客演指揮者に小泉和裕を擁している。 www.kanaphil.or.jp

日本音楽財団

日本音楽財団は、1974年に日本国内の音楽文化の振興と普及を目的として設立され、創立20年を迎えた1994年からは、西洋クラシック音楽を通じた国際貢献を目的として、弦楽器名器の貸与事業を行っています。保有する世界最高クラスの弦楽器21挺(ストラディヴァリウス製ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、ガルネリ・デル・ジェス製ヴァイオリン2挺)を若手有望演奏家や世界で活躍する演奏家に国籍を問わず無償で貸与し、同時に、これら世界の文化遺産ともいわれる名器を次世代に継承するための保守・保全を行っています。また、楽器被貸与者による演奏会を日本国内外で開催し、名器の音色に触れる機会を提供しています。日本音楽財団の事業は、日本財団の全面的な支援により実施されています。

フンメル

トランペット協奏曲 変ホ長調 WoO.1 (S49)

ヨハン・ネポムク・フンメル (1778～1837) はモーツァルトの弟子で、ベートーヴェンとほぼ同時代の音楽家。主にピアニストとしてウィーンはじめヨーロッパ各地で華やかに活躍し、作曲家としてもピアノ曲など佳作を数多く残している。1803年に作曲され初演されたときされるこの協奏曲は、フンメルの作品中でもよく知られたものの一つで、ハイドンの曲とともに、古典派時代の代表的なトランペット協奏曲である。曲は急—緩—急の三つの楽章から成り、楽器の特性を生かした華麗な技巧が駆使され聴き応えのある作品となっている。曲の開始後まもなく、《ハフナー交響曲》を想起させる部分が出てきて、師モーツァルトの影響を感じさせる。なお、原曲はホ長調。

グノー

歌劇「ファウスト」より“宝石の歌” “出征を前に”

バツハ＝グノーの〈アヴェ・マリア〉や《聖セシリア荘厳ミサ曲》で知られるシャルル・フランソワ・グノー (1818～1893) は19世紀フランスの作曲家。作品は流麗な声楽的旋律の豊かさで知られる。オペラ《ファウスト》はその代表作で、文豪ゲーテの同名の大作を基に J. バルビエと M. カレーが書いた台本に作曲され、1859年にパリで初演され成功をおさめた。〈宝石の歌〉はファウスト博士の恋人マルグリートが宝石箱を見つけ、中の宝石を身に付け、美しい王女様になった、あの方に見て頂けたらと、楽しみながら歌う軽やかでしゃれた歌。〈出征を前に〉はマルグリートの兄ヴァランタンが、出征に際して愛する妹を神に預けていく、常に危険から護り給えと歌う、抒情的だが力強いカヴァティーナ。

ロッシーニ

歌劇「セビリアの理髪師」より“私は町のなんでも屋” “今の歌声は”

ジョアキーノ・ロッシーニ (1792～1868) はイタリア・オペラの主要作曲家の一人。《セビリアの理髪師》はその代表作で、C. ボーマルシェ原作で C. ステルピーニの台本による。理髪師フィガロが機転を利かせつつアルマヴィーヴァ伯爵とロジーナの結婚を成功させる明るく軽妙なオペラ・ブッフア。〈私は町のなんでも屋〉では、フィガロが、道をあけてくれ、自分は老若男女、この町の誰のお役にも立てる便利な存在さ、楽しい生活だ!と陽気に軽やかに歌う。ロジーナの〈今の歌声は〉は、前半ゆっくり、伯爵の歌声に魅了され、彼と結ばれるはずと静かに歌い出し、後半、活発にコロラトゥーラも駆使し、私は大人しい娘、でもいざというときはと、恋に賭ける決意を華やかに示す。

芥川也寸志

弦楽のための三楽章

芥川也寸志 (1925～1989) は、文豪芥川龍之介の三男で、第2次大戦後の日本の代表的な作曲家の一人。出世作《交響管弦楽のための音楽》をはじめとする芸術音楽作品の他、ポピュラーな映画音楽や童話作品などでも知られる。《弦楽のための三楽章》は1953年に作曲され、カーネギーホールにてニューヨーク・フィルにより初演された。《トリプティック (三連祭壇画の意味)》と題されている。芥川の作風の特徴でもある歯切れよくリズムミク性格が弦のみによる同質のアンサンブルで際立ち、一般にも親しみやすい作品。曲は急—緩—急の三つの楽章から成り、ユニゾン、半音階、グリッサンド、そしてオスティナートなど様々な効果的な技法、書法を駆使して進む。

プロコフィエフ

ヴァイオリン協奏曲第2番 ㄗ短調 Op.63

セルゲイ・プロコフィエフ (1891～1953) は20世紀ロシアの代表的な作曲家の一人。大規模で実験的な作品からポピュラーな曲まで、幅広いジャンルに名作を残した。この協奏曲は作曲者が国外生活を終え故国に帰り、《ピーターと狼》のような親しみやすい作品を書いていた時期の1935年に完成された。若き日に書かれたヴァイオリン協奏曲第1番が前衛的な作風だったのに対し、某ヴァイオリニストらから作曲を頼まれたという第2番は、伝統的でわかりやすい性格になっている。急—緩—急の三つの楽章から成るが、共に抒情的なテーマに始まる第1、第2楽章が概ねそのような性格、対して第3楽章はリズム変化やヴァイオリンの技巧を生かした華麗な終曲となる。

(茂木一衛)